

70「千葉県を歩く8 大原へ」

これまでに充分千葉県内を歩いてきたので、もうこれ以上県内を歩くことは考えていなかった。しかし清々しい気候になると、家の中にいるのが勿体なくてまた歩きたくなった。

今回どの方向に行くのか考えていて、北の方向だと印西、安孫子、南の方向だと大原方面かと思っていた。どちらかと言えば田舎のほうがいいので今回は外房の大原を目指すことにした。

■2, 018年10月29日(月) ①青葉台→上総牛久

大原へは上総牛久から国道297号で大多喜方面に向かうことになるが、青葉台から上総牛久までは勝浦方面に歩いた時と同じ道は歩きたくないので、違うルートに行くことにした。

10:00 家を出発、今日は雲一つない絶好の天気。気温はこの時期としては少し高いが、空気は清々しい。有秋台に入りだらだらの上り坂がきつい。直射日光が強いのでできるだけ日陰を選んで進む。

10:30 有秋台ロータリー交差点。ここは信号のない欧米式の珍しい円形の交差点で、試験的な試みと聞いたことがある。ここから歩道はなくなり、木陰も途切れてしまった。ロータリーを過ぎると、すぐに巨大な太陽光発電プラントがあった。数百キロワットの出力だと思われる。

歩き始めてしばらくは足指に少し違和感があったが、歩いていくうちに徐々に問題なくなった。

10:40 三井石油化学の企業内送迎バスの待機場があった。有秋台に何棟もの社宅があり、そこからコンビナートへの送迎のためのバスの操車場だ。

10:45 館山自動車道の上を通過。少し行くと、広大な畑の続く地帯となった。

この時期は大根の収穫期ようで、至る所で6、7人の男性主体のグループが収穫作業をしていた。

畑をいくつかに区切り、時期を決めて種をまき収穫する。



太陽光発電プラント



館山自動車道を通過



広大な大根畑

各地の農協と収穫時期を調整して、市場でダブらないようにしているとのことだ。

11:00 このあたりが何というところか知りたくて、各住宅の郵便受けや電柱、たまにある事業所の看板などで住所を探すがなかなか分からない。土木工事のガードマンをしているおじさんに“ここは何というところですか？”と訊くと、ここは初めて来たところなのでわからないと言われてしまった。

自動車整備工場のようなところで訊くと「豊成」とのことだった。私の知っている豊成

からはかなり離れているところなので、豊成はかなり広い地域なのだ。

歩いていると、次から次と地上に設置された太陽光発電パネルが現れる。空き地に太陽光パネルを設置して発電事業をするのは手軽な土地活用の方法だが、発電出力が安定しない太陽光の電力は、電力会社にとってはその比率が高くなると重荷となるに違いない。現に九州電力では受け入れの規制をしているのが現状である。

11:20、中高根「八幡カントリークラブ」に到着。ここからしばらく行くと、セブンイレブン中高根店のところで立野通りに入った。

しばらく行きニュー南総ゴルフクラブの交差点を左折し、県道143号に入り下り坂を進む。貴船神社の少し手前を右折し、細い道に入りしばらく行くと小勝台団地に着いた。

12:10、「O」さん宅到着。せっかく近くを通るので、普段お世話になっているOさんの家に寄ってほしいと思う。ここまで2時間、休むことなく歩き続け足全体に少し疲れがあるが大きな問題はなく一安心。Oさん宅では飲み物をいただき、30分ほど休憩させていただいた。

12:45、Oさん宅出発。休憩してだいぶ足の疲れが取れたので元気が戻った。



小湊鉄道，国道297号方向に向かう

号に入る前に、踏切の目の前にあった蕎麦屋『月』で昼食。「十割りそば」の看板が掲げられている。

天セイロを注文。とても歯ごたえのある美味しいそばだった。

13:40、再スタート、国道297号を進む。道路は小湊鉄道と並行していて、周りは開けた平地が続きとてもいい気分。足指は少し痛い、疲れはそれほどではなく余裕で歩いていく。

この道は以前も歩いているので景色は見慣れたものだ。しばらく行くと見慣れた歩道橋が姿を現わし、そこを右折し商店街を抜けると14:05分、今日の目的地 小湊鉄道「上総牛久」駅に到着した。

次の列車まで30分ほど時間があるので、駅前



立野通りを行く

ここからは小湊鉄道方向に向かって田圃の中の道を進む。空気は涼しいが日差しは強く汗がどんどん出る。この分だとかなり日焼けするだろうと思う。

13:20、小湊鉄道の踏切を渡る。国道297



小湊鉄道とクロス



上総牛久に入る

の商店街を歩いてみる。

一番にぎやかな場所のはずなのに、月曜日のせいか多くの店が閉じられ、少し寂しい気持ちになった。

今日歩いた距離は14 kmほどで、足に大した問題がなくてよかった。

帰りは、上総牛久から小湊鉄道で光風台まで戻り、光風台からは小湊バスで戻ってきた。



上総牛久駅



駅からメインストリートに出るが閉鎖した店が多い

■ 2, 018年11月01日(木) ②上総牛久→大多喜

足の疲れがまだ少し残っている感じがあったが、気候が安定して今日も秋晴れの予報だったので出かけることにした。今日は上総牛久から大多喜まで進む予定だ。今回のルートは万一途中で歩けなくなっても、路線バスがあるので何とかバスで戻ることができる。

今回の目的地は交通が不便なところで、事前に接続を調べておかないと長時間待つことになる。

行き：【迎田住宅(最寄バス停)】09:24→(小湊バス)→09:45【光風台】10:09→(小湊鉄道)→10:18【上総牛久】

帰り：【大多喜】16:15→(小湊バス)→16:59【上総牛久】17:09→(小湊鉄道)→17:19【光風台】17:23→(小湊バス)→17:41【迎田住宅(最寄バス停)】

行きも帰りもこれが最善の接続だが、それでも帰りは1時間半ほどかかる。

10時20分、上総牛久駅をスタート。空は少し雲があるがすぐに晴れそうだ。気温は高くなく、歩くにはちょうどいい。町の中心部を抜けるとすぐに国道297号(大多喜街道)に入る。右側に並行して小湊鉄道の線路が通り、幅の広い歩道があり歩きやすい。



国道297号 小湊鉄道と並行している

しばらく進むとすぐに「大多喜17km」の表示があった。歩き始めたばかりで足の調子がまだわからず「17km」は少し不安がある。

だらだらした上り坂が続き、早々に左足親指の付け根に少し痛みが出てきた。道路の両側は竹林で人家はまばら。竹の地下茎が歩道の舗装を盛り上げているのを見ると植物の生命力の強さを感じる。

10時40分、鶴舞桜が丘高校グリーンキャンパスを通過。しばらくの間、小湊鉄道の線路に沿って歩くと11時ちょうどに上総鶴舞駅前に着いた。

飲み物を買いたいと思うが、ここまで歩いてきてもコンビニはおろか店らしい店が見つからない。

さらに進むと「下矢田」地区に入り、道路の両側に田んぼが開け見通しが良くなった。田は一面、黄一色に染まりすっかり秋という感じだ。



下矢田地区 人家はまばら

11時20分、歩き始めて1時間経過し「田尾」地区に入った。これから先はゴルフ銀座ともいべきところで、次々とゴルフ場の案内が目に入る。さっき痛み始めた左足親指は小康状態なので、これ以上痛くならないことを祈る。

11時35分、鶴舞桜が丘高校を通過。先ほど



一面黄色に色付いた田んぼ

のグリーンキャンパスは以前市原園芸高校とのこと。

11時50分、圏央道 鶴舞インター入口付近でやっとコンビニ「ミニストップ」を見つけ、コーヒータイムで休憩。ここから先、適当な食堂がなく昼食を食べられない可能性もあるので軽くパンを食べ、12時再スタート。

12時15分、大千葉カントリー倶楽部を通過。以前このゴルフ場でプレイしたことがあった。

阪本橋交差点にあった、ベルセルバカントリーに併設されたホテルに入りレストランがあるか訊くがないとのこと。この付近には昼食を食べられる適当なところはなさそうだ。

12時35分、「平蔵」というところで食堂「丸源」を見つけやっと昼食にありつけた。

中年の女性と年老いた母らしい2人でやっているとされる典型的な田舎食堂。食べながら話をする、ここから先は下り坂が多いとのこと。上総牛久の駅裏に一日200円の駐車場があるいう。

それを知っていればバスと鉄道の接続を気にすることなく行き帰りできたのに、、、と残念だった。

13時00分、再スタート。

13時20分、平三小学校、このあたりは集落になっている。

13時35分、上畑橋通過。両足底が痛み始めた。靴下のせいかな？今日はこれまでの履き慣れた靴ではなく、底の薄い靴で来たのがいけなかったのかも知れない。

13時50分、突然歩道がなくなった。時々来る大型トラックに注意しながら歩かなければならないので、そちらに気を取られしばらく足の痛みを感じることなく歩いた。



ゴルフ場の案内がひしめく 圏央道鶴舞インター付近



やっと見つけた食堂「丸源」



雑草に覆われたほとんど歩く人のない歩道

14時00分、両足全体が重く、だんだん歩くのが辛くなってきた。

14時10分、いよいよヘアピンカーブの続く道路に入る。すぐに「大多喜町」の標識があり、市原市から大多喜町に入った。

道路に歩道はなく、こんなところを歩いている人などまずいない。道路の端スレスレに来る車に撥ねられないように、見通しの良くない曲がり角



大多喜町に入る ここからヘアピンカーブが続く

ではよほど注意しなくてはならない。

この区間を10分弱で通過するとやっと市街地に入った。右足底に肉刺（マメ）ができていると思う。

14時30分、セブンイレブンに入り冷たい飲み物で休憩、座る場所がなく立ちんぼでしばらく休む。

14時55分、夷隅川に架かる「おおたき橋」を渡ると、すぐにいすみ鉄道の線路上を通過。左側に城見が丘駅（無人駅）が見える。

右足の肉刺、左足の爪先が痛く歩くのが辛い。やはり靴に問題があったのだろう。ここからバス停のある大多喜車庫まであとどのくらいだろうか？あと1～2kmか？ここまで来たのだから何とか頑張ってバス停に着きたい。

15時05分、船子交差点を右折し県道172号に入り町の中心部を目指す。行くと夷隅川に架かる外見橋があり、その先の桜台交差点を左折する。



夷隅川を渡る



いかにも城下町らしい公衆電話スポット

この辺りの街並みは城下町大多喜の風情が感じられる。

御菓子司『津知家』で名物の「十万石最中」を買う。足はすでに引き摺る感じだが、ここまで来れば目的地まであと数百メートルだ。

夷隅神社本殿口を通過し突きあたりを右に曲がると、15時25分やっと大多喜車庫に辿り着いた。ここは町の南端で上総牛久、勝浦、茂原方面への路線バスの起点になっている。

上総牛久行きバスは16時15分発なので50分待ちだが、余裕があってよかった。肉刺のできた足で走らざるを得ない状況になったら大変なところだった。

今日歩いた距離は20kmくらいだろう。今回は普段犬の散歩などに使っている靴で歩いたのだが、長距離を歩くのは不向きだったようだ。

■ 2, 018年11月17日(土) ③大多喜→大原

今回は車で大多喜まで行き、駐車場に預けて歩くことにした。そうすることで、鉄道やバスの接続を気にする必要がなくなり、時間も有効に使え交通費もずっと安く済む。

9時25分に家を出発、これまでに歩いた2回分の距離を確認したいので、前々回と前回歩いたのと全く同じルートで車を進める。牛久を過ぎてすぐに免許を忘れて来たことに気付き、急にスピードを落とす。免許はいつもサイフに入れ、車で外出の際には必ずサイフを持って出るが、今日は身軽にしたいのでうっかり現金だけを抜き出してきてしまったのだ。ここまで来てしまっは、もう家に取りに戻るのはいやなので交通違反しないように注意しながら走る。何かアクシデントがあったときは仕方ないと覚悟を決めた。

距離は家から牛久までが13km、牛久から大多喜までが19kmだった。

10時30分、大多喜駅に着く。駅近くの町営駐車場に車を預け歩き始める。大多喜の中心部には城下町の風情があちこちに残っている。外廻橋のそばですれ違った女子高生に「こんにちは」と元気に挨拶されとても清々しく気持ちよかった。



国道465号に入る 「いすみ15km」の表示

人家は少なく田畑、林などが目立ち、時々小さな工場や倉庫などがある。そんな中「神保電器」の大きく立派な工場があった。神保電器はコンセントやスイッチなどが主力製品の中堅の配線器具メーカーで現役時代を思い出した。

11時05分、夷隅川に架かる増田橋を渡ると



夷隅川にかかる古びた鉄橋



城下町を感じさせる建物(大多喜)

10時45分、船子交差点で国道297号を横断し、国道465号に入り直進する。すぐに「いすみ15km」の表示。国道ということもあり、幅広い歩道が整備されて歩きやすい。道路は「いすみ鉄道」に沿って延びている。



神保電器工場



工場の壁にコンセントとプラグの絵

すぐに「いすみ市」に入った。

いすみ鉄道の鉄橋は、そのプロポーション、古き加減に趣がありとてもいい。

空地に太陽光発電のパネルを並べただけの発電

所があちこちに見られるのは、このあたり一帯の特徴的な景色だ。

行川地区に入ると、道路に面して立派な建物の第一エレクトロニクス千葉工場があった。調べたらデジタル計測器を製造しているメーカーだった。

11時20分、道路の左側に日蓮宗の寺「妙泉寺」があり、鉄道踏切越しに立派な門が見えた。

ここからは歩道が右になったり左になったり、時々なくなったりで歩きにくい。妙泉寺を過ぎるとすぐに「上総中川駅」に着いた。このあたりはととてもどかな景色だ。

天気予報では降雨確率が40%だったが、全く雨の気配はない。空気は爽やかでも直射日光が暑く、ウインドブレーカーを脱いで手にもって歩く。

引田地区に入り、赤茶色の大きな寄棟屋根の昔風の家が1軒、続いてもう2軒ととても目立った。



第一エレクトロニクス千葉工場



日蓮宗 行川妙泉寺



沿道で目立つ赤茶色の寄棟屋根の家



11時50分、日本合成化工千葉工場。広い敷地に大きな工場と倉庫が何棟も建っている。すぐに、いすみ鉄道「第3大多喜街道踏切」を通過。

12時、荻谷地区に入る。この沿線では人口の集中している地域で、人家や店舗がたくさんあるが、

今日は土曜日で開いていない店がほとんどだ。

12時10分、国吉駅に到着。いすみ鉄道の駅としては乗降客の多い駅のようだ。昼食を食べよ



国吉駅 シャッターチャンスを狙う鉄道ファン

うと食堂を探すめぼしいものは見つからない。

国吉駅には多くの鉄道ファンが集まっていた。いすみ鉄道は全線単線、ちょうど上り下りの列車



国吉駅 すれ違いの列車

がこの駅ですれ違う時刻で、みんなシャッターチャンスを狙っている。

「たこめし」の幟を見て買おうと、係りのお姉さんに訊くとすべて予約とのこと。駅にいたお婆さんが、知り合いらしい駅弁売りのおじさんに「たこめし」が残っているか聞いてくれたが、もう売り切れとのこと。残念！仕方ないので駅前の喫茶店で焼き魚定食を注文、昼食とした。

12時45分、再スタート。足の痛みはなく、履き慣れた靴なら大丈夫だということが分かり安心した。すぐに夷隅川に架かる荻谷橋を通過、国吉を出るとずっと田んぼが続いた。

「第2大多喜街道踏切」を渡ると、間もなく道路際にひっそりと「新田野駅」があった。古びた小さな駅舎と風化の激しい駅名表示板が侘しい。

いすみ鉄道はもともとJR木原線が第三セクターに引き継がれてこの名称になった。

前社長「鳥塚 亮〈あきら〉」氏は英国航空に勤務していたが、2009年いすみ鉄道の社長公募に応募して採用された。

2013年7月に出版された「ローカル線で地域を元気にする方法」を読んだことがある。

『廃止寸前の赤字ローカル線に公募でやってきた社長は、筋金入りの鉄道ファンにして、元外資系航空会社の運航部長。陸も空も知り尽くした「よそ者社長」の斬新なアイデアで、お荷物だった赤字路線は活気を取り戻し、またたく間に地域の観光シンボルに。はたしてその秘密とは？「乗らなくてもよいです」「来ていただいても何もありません」など意表をつくキャッチフレーズと、鉄道ファンの心をくすぐる抜群の企画力で、いま全国から注目を浴びる著者の、体験的地域ビジネス論。地域とひとを元気にするヒントがここに！』と帯文にある。

新田野駅周辺はかなりの過疎地域のように見える。そもそも駅が必要か？と思うほど。



広い敷地と2階建ての白い家



新田野駅舎



駅名表示板 (NITTANO→につたの?)



新田野駅付近

そんなところに二階建ての立派な白い建物が建っていた。不思議なことに、家の大きさに比べて不釣り合いなほど広い敷地、その全体が舗装されている。そして良く見ると轍の跡が全面に付いているのは何故だろう。窓が小さく、しかも雨戸が閉まっているので普段は不在なのかも、。。。。

13時30分、山田交差点。国道465号はここで左に折れ大原方面に向かう。しばらく行くと「第1大多喜街道踏切」があった。このあたりは山田

新町というようだ。五反野踏切付近で列車が近付いてきたので動画を撮影した。列車が徐々に近づき、目の前を通過して遠ざかっていく動画は迫力がある。

13時55分、佐室地区に入る。道路は谷間を通り、人家は少なく山里という感じのところだ。



佐室地区

前方にトンネルが見えてきた。今回初めてのトンネルで「佐室トンネル」とあった。

比較的新しいトンネルで、内部は明るく歩道も整備され通行に全く問題なかった。トンネルを抜けるとすぐ道路脇に「津波緊急避難場所」の立札。

ここは海拔30mのところ「津波発生時の一時的避難場所」と書かれている。大津波のときはこんな所にまで非難しなければならぬのか！？

14時20分、谷間を抜け新田地区に入ると、前方が開け見通しが良くなった。道路の両側は一面田圃が広がっている。ここからしばらく歩くと、徐々に家が増え突如として西大原駅が現れた。



佐室トンネル



新田地区

14時30分、やっと市街地に入った、もう目的地点はそう遠くない。あそこに見えるNTTの高いアンテナのあたりが街の中心だろう。



西大原駅

疲れた足にはここからが結構遠い。ただ、今回は肉刺ができていないわけではないので、痛い足を引きずりながら歩くということはない。駅に通ずる交通量の多い道路を進むとやっと幹線道路に出た。

14時50分、大原駅に到着。



大原駅（右：JR／左：いすみ鉄道）

大原駅はいすみ鉄道の始発駅で、JR外房線が通る駅でもある。

ここから海へはあと1 kmくらいだ。せっかくだがここまで来たのでできれば海を見てみたいが、もうこれ以上歩く余裕がない。

今日歩いた距離は17 kmほどだろう。

今回歩いた総距離は50 kmくらいだと思う。

特に大きな問題もなく、最終目的地まで歩けたことはとても嬉しい。足の状態はその時々で変わり、最悪の場合歩けなくなってしまうこともありうる。そんな不安も抱えながら、さまざまな状況に応じ工夫して目的の場所まで歩くことができた時の達成感がとてもいい。

(2018. 11. 17)

